仕事と家庭を両立できる環境で正社員のまま長く働き続けられる

専修学校　日本菓子専門学校
三浦 秀一 校長

時間限定で働くことができる正社員制度を導入

1960年に全国菓子工業組合連合会が設立した専修学校「日本菓子専門学校」。創立当初は学生の大半が菓子業界のご子息で、約9割は男子学生でした。その後、製菓製パン業界で多くの女性職人が活躍するようになり、現在は約6割が女子学生。教員である職員も女性が約半数まで増えています。そこで、女性職員がより働きやすくするためにさまざまな制度を導入。「時間限定正社員制度」は、正社員の身分のまま勤務時間を限定して、早出や残業、土日の出勤をしなくてもよいという制度で、育児や介護とも両立しやすいと好評です。

「最初に時間限定正社員制度を利用した職員は2016年で1名。毎年、状況をみながら1年単位で契約していますが、一番多い年は4名が制度を利用。そのときは介護休暇を取る職員も2名いて、調整が大変でしたね(笑)。制度を利用する代わりに職務給を減らし、待遇に差をつけることで、他の正社員に納得してもらえるようにしています」と三浦秀一校長。

時間限定正社員制度を利用した杉山香代子さんは、勤続15年目。第1子のときに産休・育休を約1年間取り、第2子で産休・育休に加えて時間限定正社員制度を利用しました。「学校の勤務時間は8時30分～17時ですが、実技の準備などがあるため、教員は7時頃には出勤しています。しかし保育園に預けられるのは7時30分からなので、第1子のときはなるべく早く来られる時間に出勤するという形で、同僚に負担をかけていました。子どもが突然熱を出して早退することも多く、急に仕事ができなくなったときにまわりにサポートしてもらうのが心苦しくて……。時間限定正社員だと、8時30分～17時が勤務時間として決められているので、早出や残業をする必要がないと割り切ることができました。時間と心に余裕ができたことが何よりありがたかったですね」。杉山さんは第2子が小学校2年生になるまで制度を利用して正社員に戻ったと言います。

専門職ゆえにチームを組んでサポートしあう雰囲気が自然にできている

同校では、女性職員が増えている中、子どもの急病などに柔軟に対応できる制度も設けられており、出産後も安心して働き続けられる環境が整っています。勤続5年目の教員の高橋渚さんも、先輩方のロールモデルが身近にあることで将来のライフプランが立てやすいと言います。「先輩方が実際に時間限定正社員制度や産休・育休を利用して復帰されていて、相談しやすいですね。よく職場でお子さんの話を聞かせていただき、リアルな育児の大変さもイメージできて参考になります。お子さんのいる教職員が何名かいますが、自分もいつか子どもを持ちたいので、急病時など、みんなで協力しあっていく雰囲気が自然にできていて、出産後も働きやすいと思います。杉山さんは、仕事が丁寧ですごく気配りされているので、時間限定でも喜んでサポートさせていただいていましたし、自分も見習って頑張ろうという気持ちになりました」。

「和菓子、洋菓子、パンそれぞれの専門職だから、チーム内での協力体制が大切なのです。働きやすい環境を整えることで、優秀な人材が出産後も働き続けてくれるようになりました。当校の講師を務めるシェフの店舗などで長期休暇を利用して研修をすることで現場での実務経験を積んでもらったり、業界コンテストへの積極的な参加や資格取得を推奨したり、キャリアアップ支援も行っています。杉山さんと高橋さんは菓子製造技能士1級を取得。高橋さんは、クリスマスシーズンに洋菓子店で研修を行い、マジパン細工というデコレーションのコンテストに参加するなど、とても勉強熱心です」と三浦校長。杉山さんも「子どもが小学生になり、少し手がかからなくなってきたので、洋菓子コンクールに挑戦したいと考えています」。今後は女性の管理職への登用も増やしていく方針だと言います。

同校ではほかにも全教職員に「1年単位変形労働制」を採用。専門学校という職場ゆえに行事などがあって土日祝日も出勤日として設定されていますが、その代わりに学生の休みに合わせて夏期・冬期・春期に1週間ずつの長期休暇が取得できます。介護休業を93日連続ではなく単発で取れたり、全員が加入できる傷害保険もあり、福利厚生も充実させているそうです。

和気あいあいとした雰囲気の授業。女性教員が活躍している姿に憧れて、同校への就職を希望する学生も多い。

教育部課長の杉山香代子さん(左)と教育部担任の高橋渚さん(右)

専修学校 日本菓子専門学校 | 上野毛2-24-21
TEL：03-3700-2615　https://www.nihon-kashi.ac.jp/